

# 第2次飯塚市觀光振興基本計畫

(基本方針案)

平成30年3月

# 目次

---

第1章 飯塚市観光振興基本計画の策定 .....	1
1-1 計画策定の趣旨 .....	1
1-2 計画の位置づけ .....	1
1-3 計画の期間.....	1
1-4 計画の進捗管理 .....	1
第2章 飯塚市観光の現状 .....	2
2-1 第1次計画の振り返り .....	2
2-2 第1次計画での数値目標と達成状況 .....	3
2-3 観光入込客数減少の要因.....	4
2-4 飯塚市主要観光施設の観光入込客数の動向.....	5
2-5 福岡県内の観光入込客数の動向.....	6
2-6 筑豊地区の観光入込客数の動向.....	7
第3章 観光を取り巻く現状と飯塚市の課題 .....	8
3-1 観光を取り巻く現状.....	8
3-2 飯塚市における観光の課題 .....	11
3-3 飯塚市の強み.....	13
3-4 飯塚市の主な観光資源 .....	14
3-5 飯塚市内の観光施設の動向 .....	15
第4章 観光振興の目的・基本方針.....	17
4-1 飯塚市における観光振興の目的.....	17
4-2 基本方針 .....	18

# 第1章 飯塚市観光振興基本計画の策定

---

## 1-1 計画策定の趣旨

飯塚市では、2008年（平成20年）3月に『飯塚市観光振興基本計画』を策定し、「地域全体の魅力を市民と観光客が共有できるまち」、「市内外の観光資源・組織のネットワークが構築されたまち」、「様々な分野が連携し継続的に発展するまち」を観光都市目標像に掲げ、様々な観光施策に取り組んできました。

この間、観光を取り巻く社会情勢は、訪日外国人観光客の急増、観光ニーズの多様化などにより大きく変化してきています。こうした変化を捉えながら本市の観光資源等を活かしたまちづくりを進める指針として『第2次飯塚市観光振興基本計画』を策定しました。

## 1-2 計画の位置づけ

この計画は、第2次飯塚市総合計画に掲げる都市目標像「人が輝き まちが飛躍する住みたいまち 住みつづけたいまち ～共に創り 未来につなぐ 幸せ実感都市 いいづか～」の実現に向けた観光分野の個別計画として位置づけられるものです。このため、本市の観光振興を目指し、今後の観光まちづくりを図るうえで、関連する諸計画との整合を図りながら進めるものとします。

## 1-3 計画の期間

計画の期間は2018年度（平成30年度）から2027年度までの10年間とします。

## 1-4 計画の進捗管理

社会情勢などの変化を踏まえ、毎年度点検・評価を行い必要に応じて見直し改善を行うものとします。

## 第2章 飯塚市観光の現状

### 2-1 第1次計画の振り返り

第1次計画では、各基本方針に沿った様々な施策を推進するために60項目の具体的な取り組みを推進プロジェクトにより取り組んでいくこととしていました。各施策の具体的な取り組み状況について、第1次計画に掲げている60項目について10年間でどれくらい取り組んでいるかを4段階で評価を行いました。評価を行った結果、全体60項目のうち49項目では取り組みに着手していますが、9項目は未着手でした。また、着手した49項目のうち25項目については概ね計画に掲げている取り組みを行っていますが、約半数の22項目については取り組み状況が不十分でした。このことは、第1次計画策定後に進捗管理や評価を行う組織・体制づくりができておらず、取り組みによる効果の検証や見直しが不十分であったことが大きな要因となっています。

<取り組み状況評価の基準> 10年間の取り組み状況を下記の4段階で評価

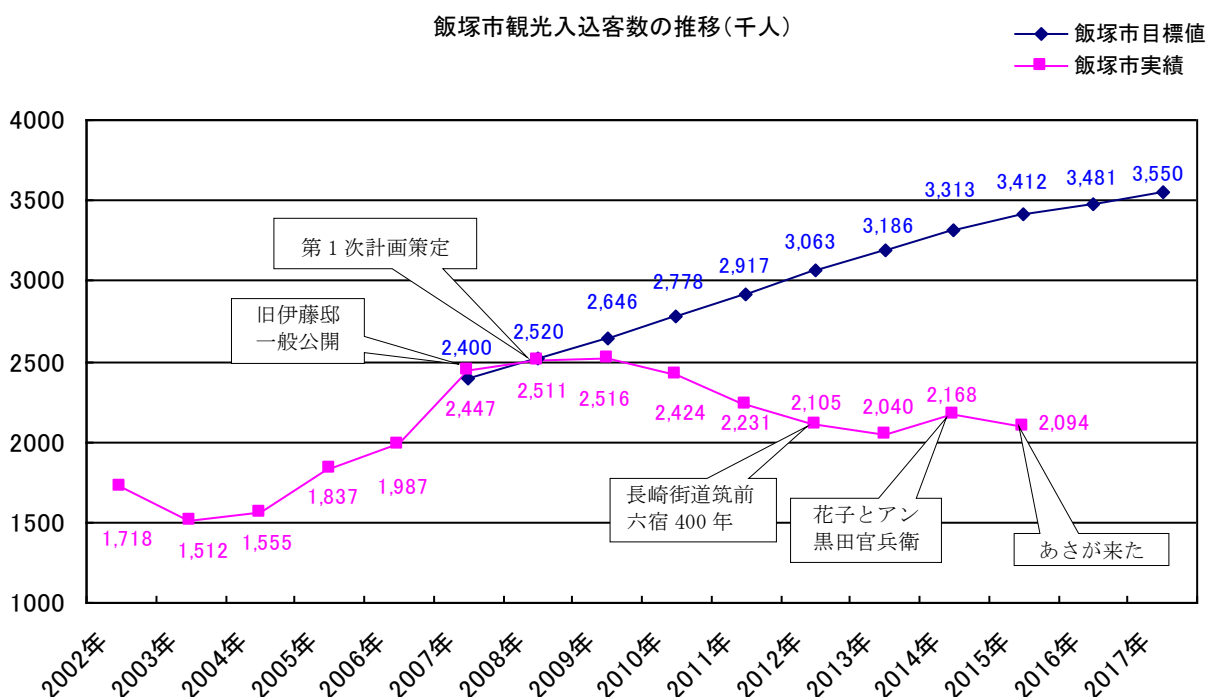
- A・・・目標を上回る取り組み状況      B・・・概ね目標を達成している取り組み  
C・・・目標を下回っている取り組み      D・・・未着手の取り組み

施策	項目数	A	B	C	D	対象外
(1) 観光推進体制の整備	8	0	0	3	5	0
(2) 観光まちづくりの 気運の醸成	11	1	5	3	2	0
(3) 観光基盤の整備	8	0	5	3	0	0
(4) 観光情報の提供と収集	9	0	4	4	1	0
(5) 観光資源の発掘・商品化 ・ルート創出	19	1	9	9	0	0
(6) 重点地区の設定と 観光地域づくりの推進	5	0	2	0	1	2
合計	60	2	25	22	9	2

## 2-2 第1次計画での数値目標と達成状況

第1次計画では、2017年（平成29年）の観光入込客数目標を355万人/年としていました。2007年（平成19年）の旧伊藤伝右衛門邸一般公開を契機に観光入込客数は200万人を超えていますが、各年の増加率目標（2%から6%）は達成できておらず、2010年（平成22年）からは観光入込客数が減少に転じています。

本市の観光拠点である旧伊藤伝右衛門邸は、2014年（平成26年）にはNHK連続テレビ小説「花子とアン」の効果もあり、年間約27万人の入館者数（前年比約21万人増）を記録しましたが、飯塚市全体の観光入込客数は前年比約13万人増にとどまっています。2015年（平成27年）のNHK連続テレビ小説「あさが来た」では、本市の潤野炭鉱がモデルとなったこともあり、旧伊藤伝右衛門邸は年間約17万人の入館者数を記録しましたが、飯塚市全体の観光入込客数は前年比約7万人の減となっています。



### <福岡県観光入込客数推計調査>

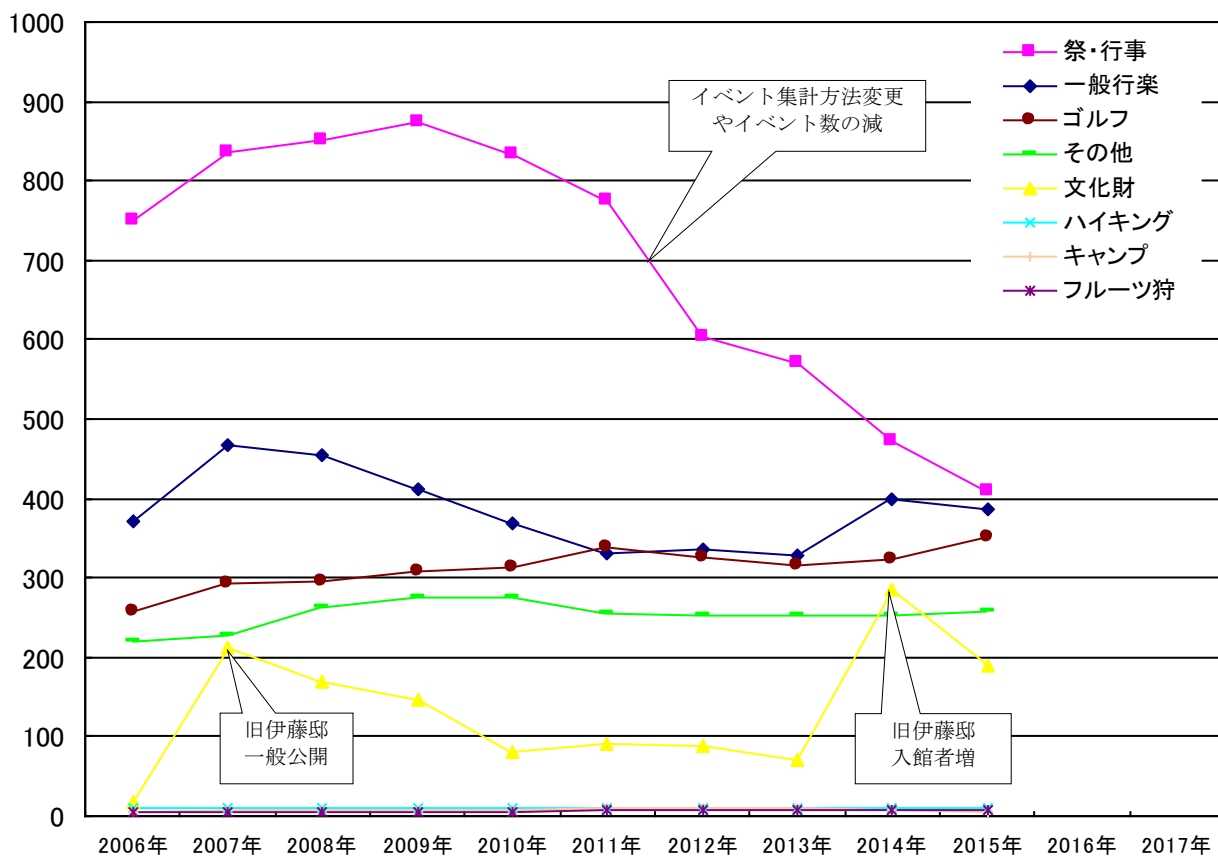
市内の各観光施設やイベントに来訪した観光客の総和であり、目的別では「一般行楽」「祭・行事」「文化財等」「ハイキング・登山」「海水浴」「キャンプ」「釣・観光漁業」「フルーツ狩り」「ゴルフ」「修学旅行」「その他」の11項目に分類される。

飯塚市では嘉徳劇場や農楽園八木山、サンビレッジ茜、筑豊ハイツ等への来訪者を「一般行楽」に分類し、旧伊藤伝右衛門邸、歴史資料館、内野宿等への来訪者を「文化財等」に分類している。イベントについては、雛まつりや山笠、花火大会等の主催者発表数を「祭・行事」に計上している。

## 2-3 観光入込客数減少の要因

旧伊藤伝右衛門邸は2008年（平成20年）以降、毎年入館者数が減少していますが、「祭・行事」の観光入込客数が増加していたため、2009年（平成21年）までは全体の観光入込客数が増加していました。2010年（平成22年）以降は旧伊藤伝右衛門邸の入館者数の減少に加えて、イベントの減少（日数減少・中止）、イベント集計方法の変更により、「祭・行事」の観光入込客数が大幅に減少しているため、全体の観光入込客数が減少に転じています。

飯塚市目的別観光入込客数推移(千人)

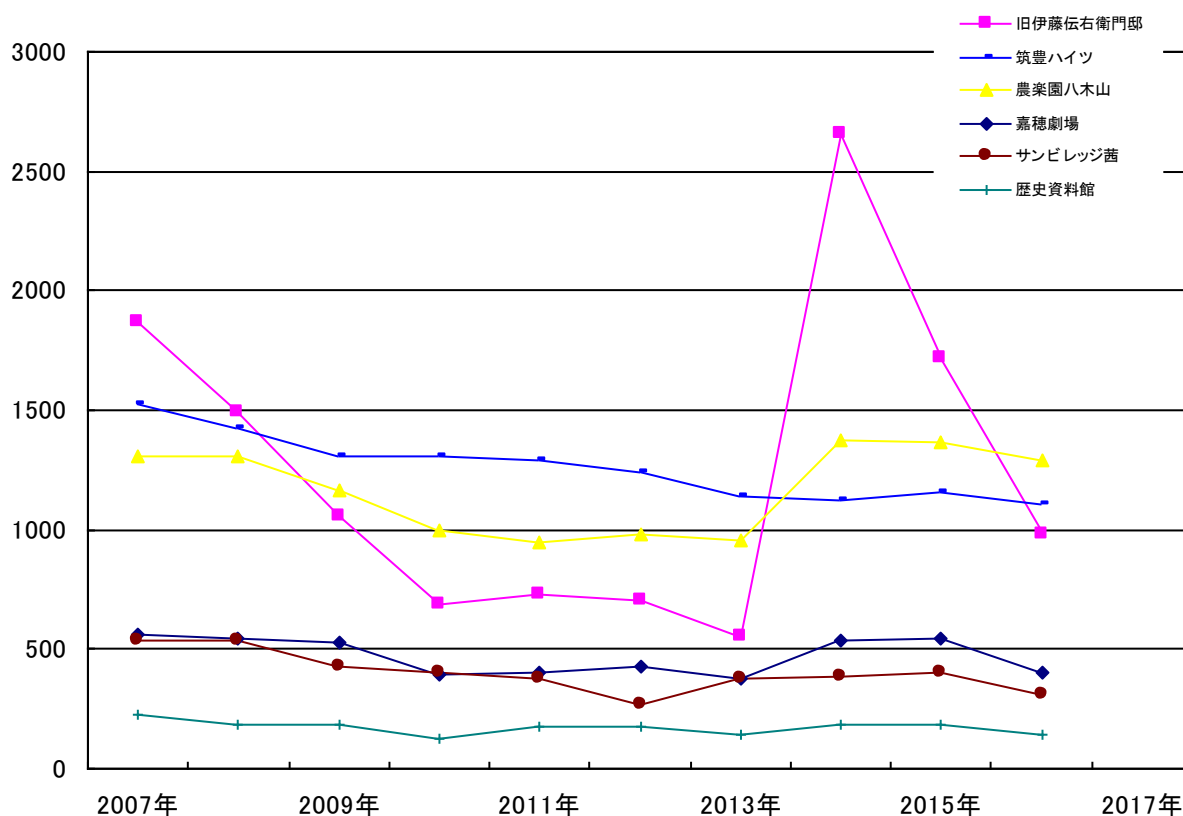


福岡県観光入込客数推計調査

## 2-4 飯塚市主要観光施設の観光入込客数の動向

本市では福岡県観光入込客数推計調査において、「旧伊藤伝右衛門邸」「嘉穂劇場」「農楽園八木山」「歴史資料館」「筑豊ハイツ」「サンビレッジ茜」の6施設を主要観光施設としています。旧伊藤伝右衛門邸の観光入込客数は2008年（平成20年）以降大幅に減少していますが、旧伊藤伝右衛門邸を除く5施設は旧伊藤伝右衛門邸のような極端な減少には至っていません。また、2014年（平成26年）にはNHK連続テレビ小説「花子とアン」のドラマ効果により、旧伊藤伝右衛門邸の入館者数が急増し、筑豊ハイツ以外の4施設の観光入込客数も増加していますが、旧伊藤伝右衛門邸ほどの増加には至っていません。

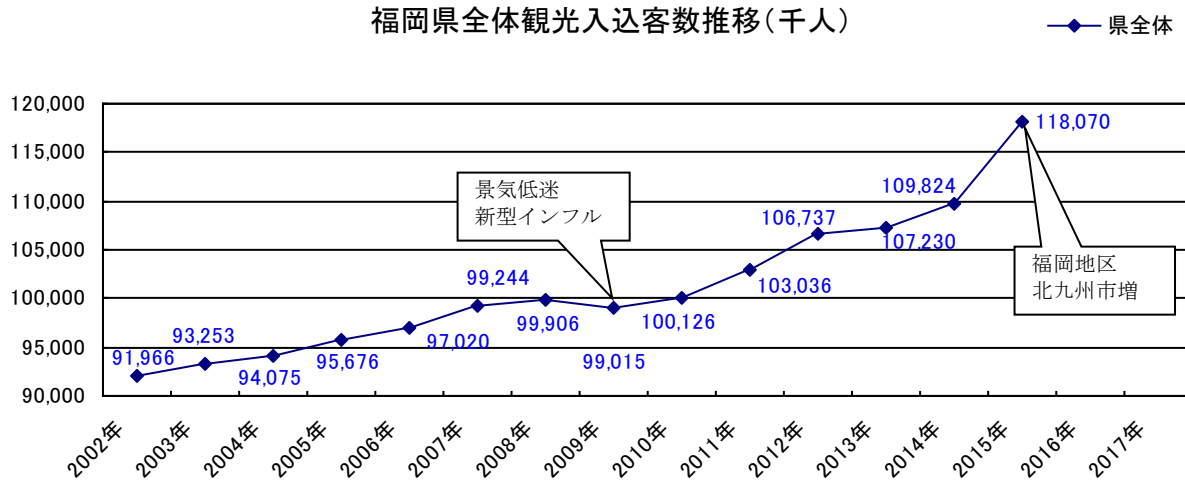
飯塚市主要観光施設入込客数推移(百人)



## 2-5 福岡県内の観光入込客数の動向

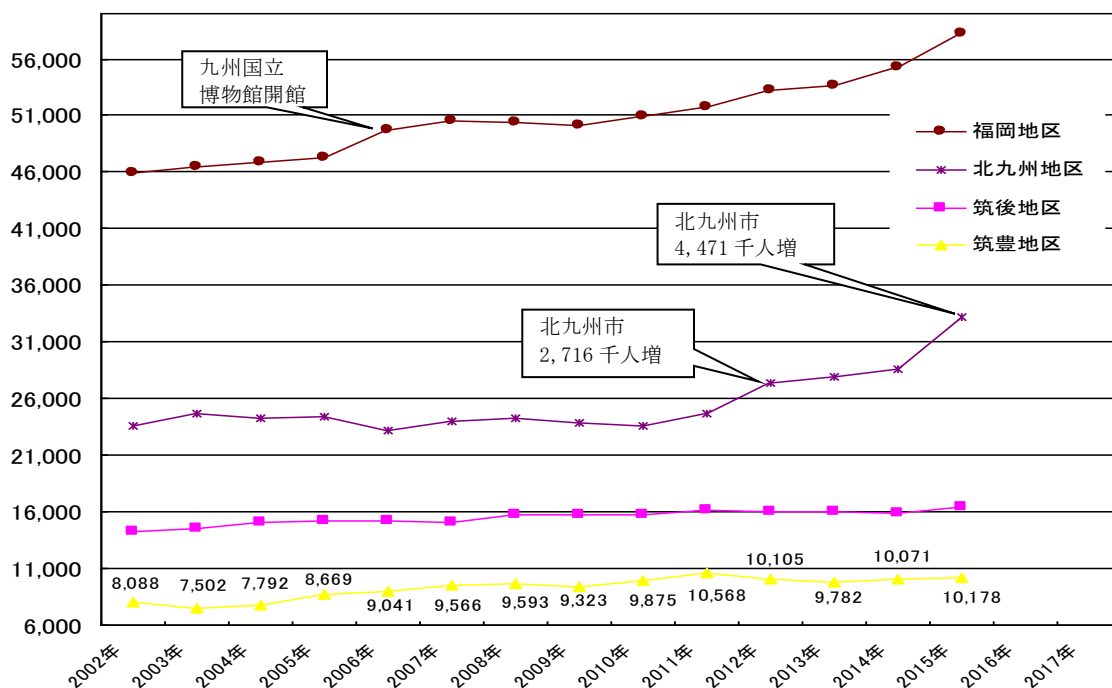
福岡県全体及び福岡地区の観光入込客数は2009年（平成21年）に減少しましたが、その後は毎年増加しています。福岡地区の観光入込客数の増加については、福岡市の影響が大きいものの、福岡市近郊の自治体の観光入込客数も増加しています。北九州地区については、2012年（平成24年）と2015年（平成27年）に観光入込客数が大幅に増加していますが、いずれも北九州市の増加によるものであるため、その他の自治体では横ばいの状態が続いています。

福岡県全体観光入込客数推移(千人)



福岡県観光入込客数推計調査

福岡県内地区別入込客数(千人)



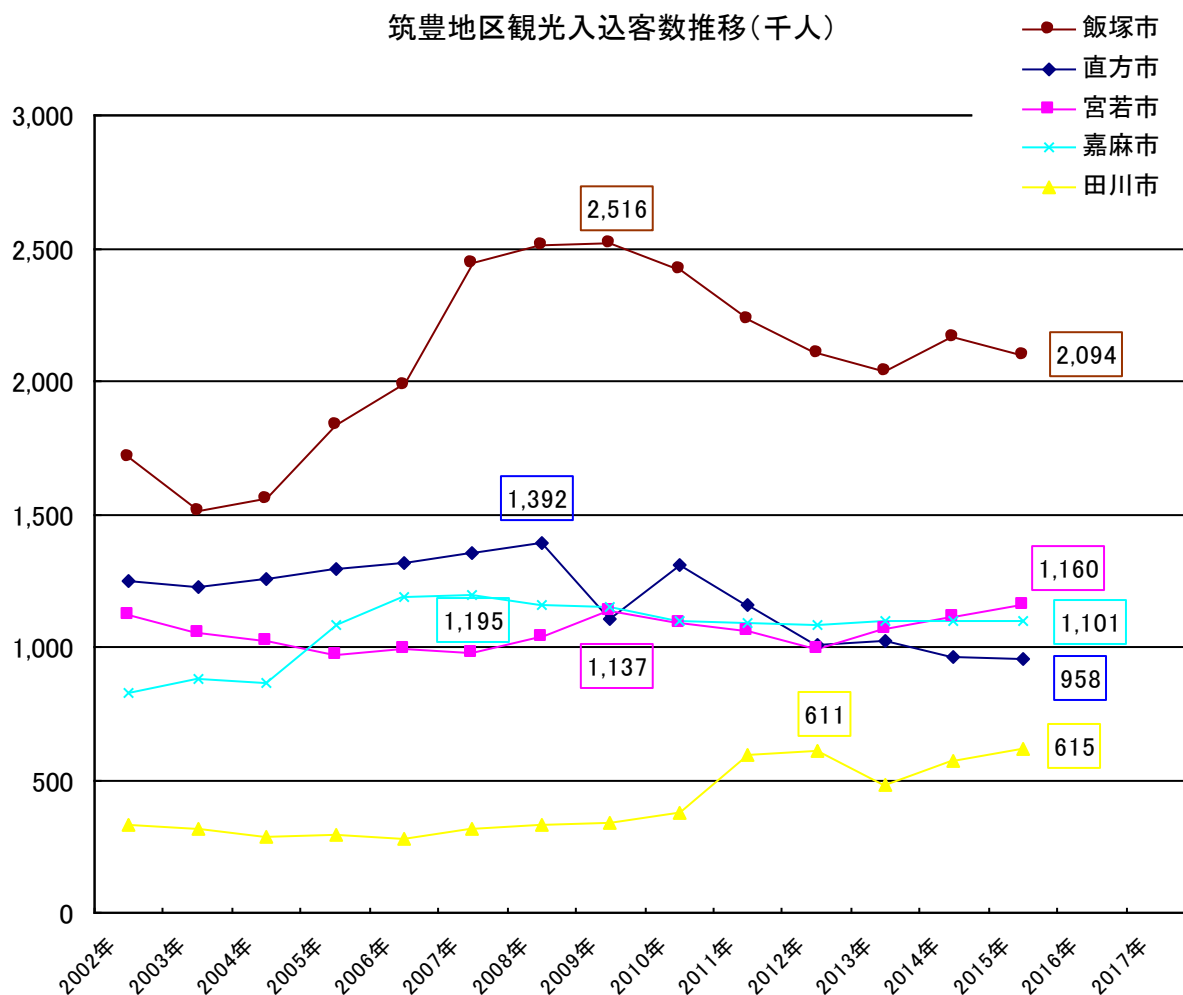
福岡県観光入込客数推計調査



## 2-6 筑豊地区の観光入込客数の動向

本市の観光入込客数は2009年（平成21年）をピークに大きく減少していますが、筑豊地区全体としては微増傾向となっています。自治体別では、田川市・宮若市の観光入込客数は増加傾向、飯塚市・直方市は減少傾向となっています。嘉麻市については2007年（平成19年）と2015年（平成27年）を比較すると減少していますが、近年は若干の増加で推移しています。

福岡県全体としては、2008年（平成20年）から2015年（平成27年）までの間に観光入込客数が約1,800万人増加していますが、筑豊地区全体の観光入込客数は微増であり、福岡県全体で増加した観光客を筑豊地区では取り込めていない状況が続いています。



福岡県観光入込客数推計調査

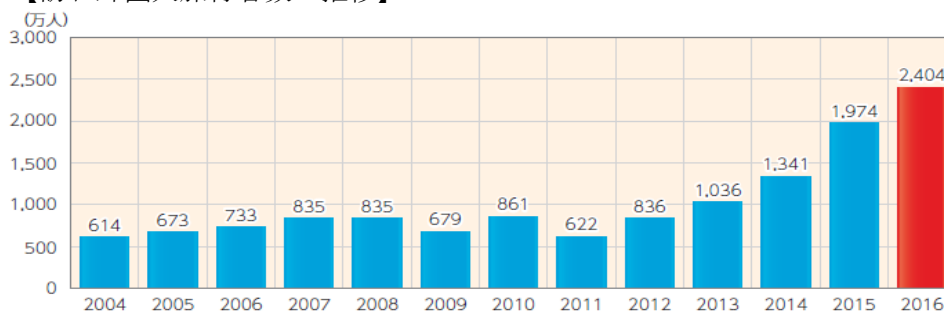
## 第3章 観光を取り巻く現状と飯塚市の課題

### 3-1 観光を取り巻く現状

#### (1) 外国人観光客の増加

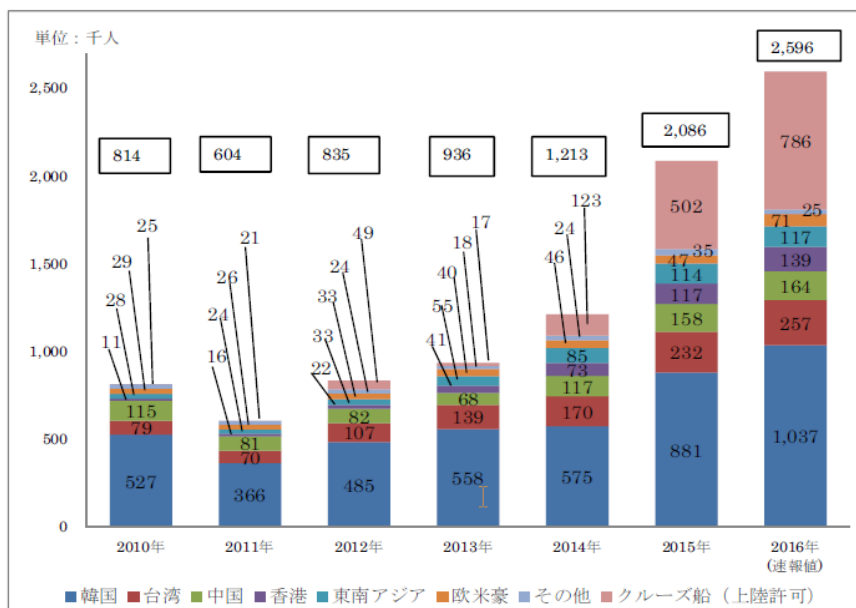
訪日外国人旅行者数は2013年（平成25年）に初めて1,000万人を超え、2016年（平成28年）には2,404万人まで増加し、政府は「観光立国推進基本計画」において、訪日外国人旅行者数を2020年に年間4,000万人まで増加させる目標を設定しています。福岡県においても訪日外国人旅行者数は年々増加しており、福岡県へ直接入国する外国人数は2010年（平成22年）81万人から2016年（平成28年）259万人と3.2倍の増加となっています。

【訪日外国人旅行者数の推移】



出典：観光庁「観光白書」（平成29年版）

【福岡県の入国外国人数の推移】

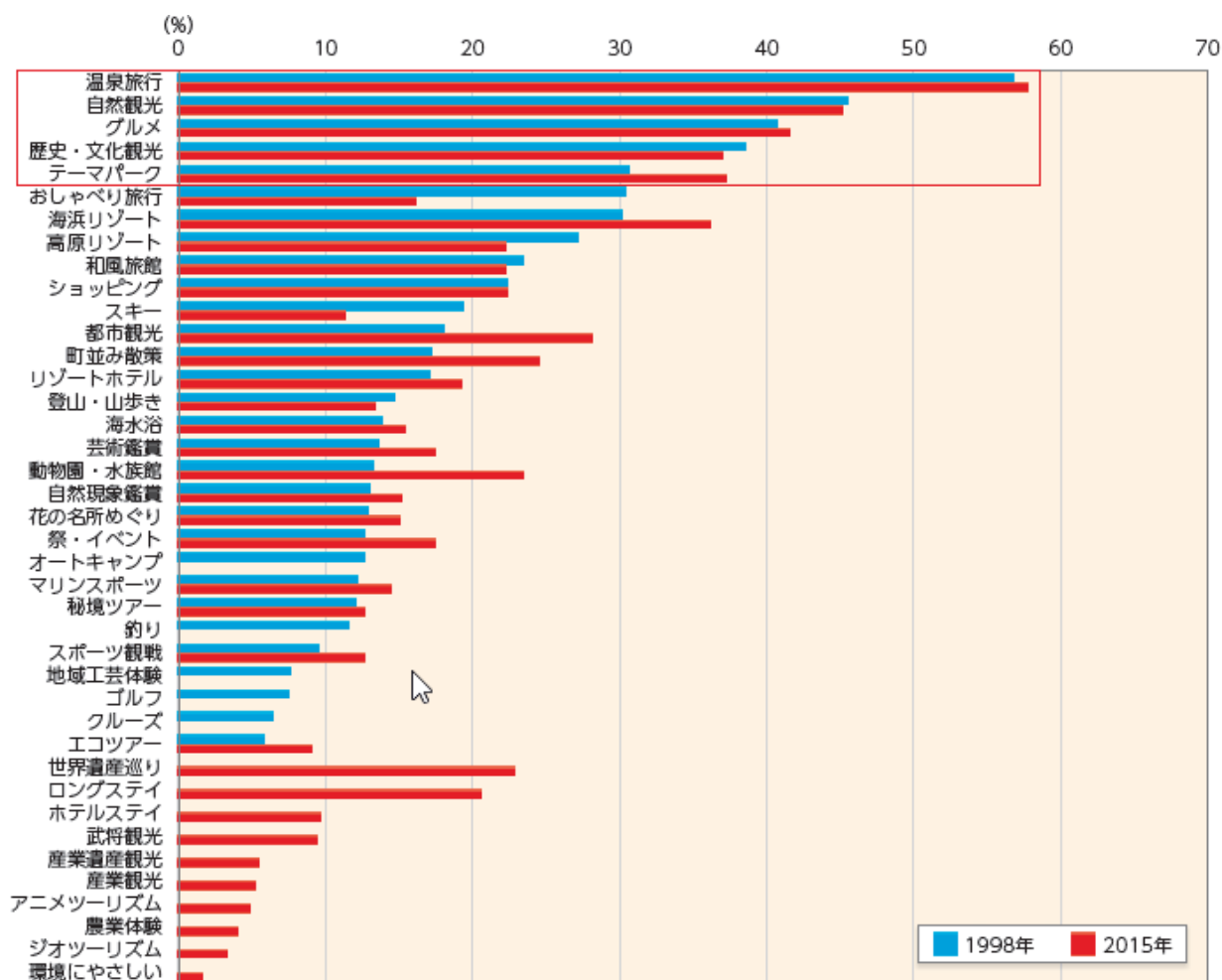


出典：福岡県観光振興指針

## (2) 国内旅行の観光ニーズの多様化

近年の国内観光はインターネットの普及や観光ニーズの多様化などにより、団体旅行から個人旅行へとシフトしています。希望する国内旅行の種類と比較においては、温泉や食、自然等のニーズが依然として高くなっていますが、町並み散策や体験など様々な目的のニーズが高まっています。

【希望する国内旅行の種類と比較（1998年・2015年）】

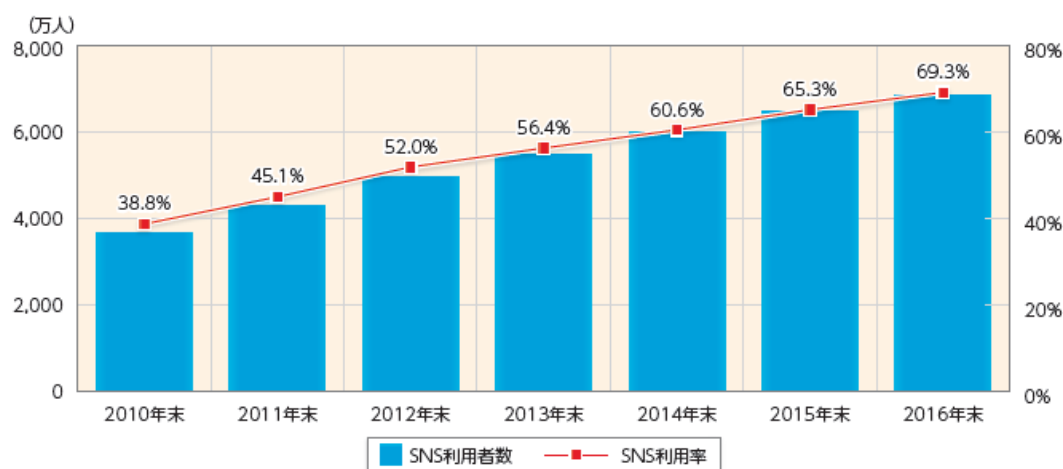


出典：観光庁「観光白書」（平成29年版）

### (3) インターネットの普及

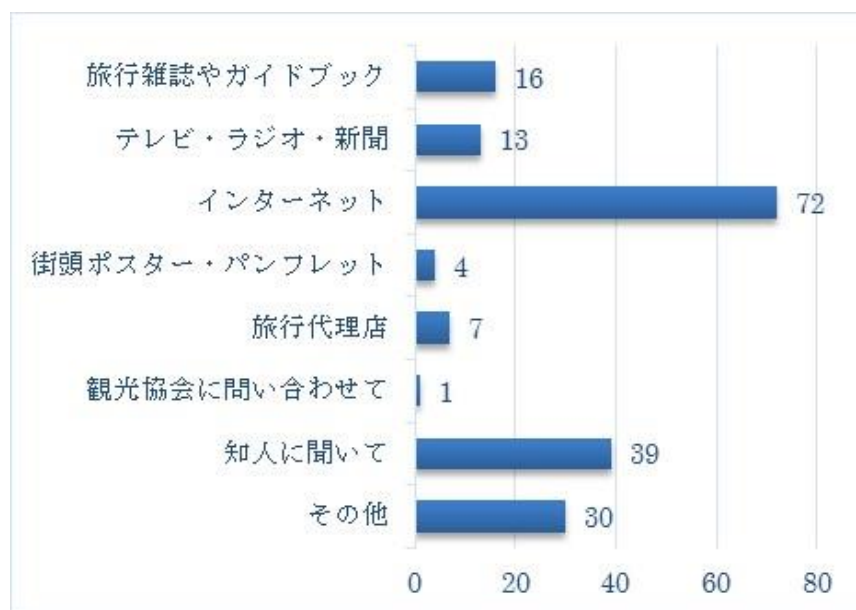
近年はインターネットが普及し、総務省「平成 26 年通信利用動向調査」によると全世帯の 64%以上がスマートフォンを所有しています。そのため、観光情報の入手先はこれまでのパンフレットなど、紙媒体を中心としていたものから、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）やインターネット上のウェブサイトの活用に移行しています。飯塚市において実施したアンケート調査においても観光情報の入手先は「インターネット」という回答が最も多くなっています。

【SNS 利用者数・SNS 利用率の推移】



出典：観光庁「観光白書」（平成 29 年版）

【飯塚市の観光情報の入手先】



平成 29 年飯塚市観光客アンケート

### 3-2 飯塚市における観光の課題

第1次計画の検証結果やアンケート調査、観光を取り巻く現状から考えられる本市における観光の課題は以下のとおりです。

#### ①観光推進体制

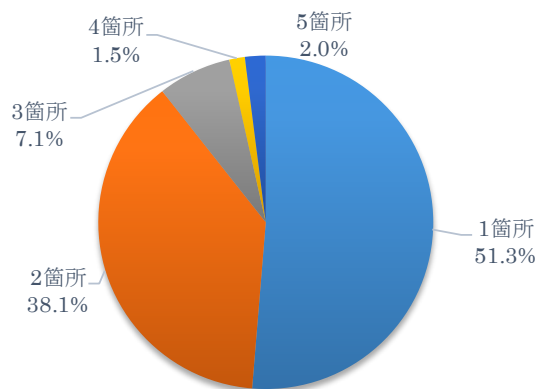
第1次計画において、観光に関わる各団体の連携を図り、観光諸施策を進めるために協議会を設立するとともに観光に関わる人材の育成を行うこととしていましたが、実施に至っていません。推進体制の確立が不十分であったことが第1次計画の取り組み不足の要因であることから、今後は地域や民間事業者、観光関係団体が連携するための仕組み作りや観光素材を活かすためのコーディネーターとなる観光プロデューサーの人材育成が最優先に求められます。

#### ②観光客の滞在時間と資源の活用

2014年（平成26年）にはNHK連続テレビ小説「花子とアン」のドラマ効果により、旧伊藤伝右衛門邸の入館者数が年間約27万人（前年比約21万人増）に急増していますが、その波及効果は市内全域には及んでいません。平成29年に実施したアンケート調査において、市内での立ち寄り先は1箇所から2箇所という回答が約9割となっており、飯塚市を訪れる観光客の滞在時間は短くなっています。今後は市内で観光客の周遊を促進するため、スポーツや物産、自然・温泉等の観光資源を様々な資源を活用した観光商品の企画・立案が必要です。また、観光客の滞在時間の延長には「食」が重要となることから、飯塚ならではの「食」の開発も重要となります。

市内での立ち寄り先の数

立寄先の数	回答数	割合
1箇所	101	51.3%
2箇所	75	38.1%
3箇所	14	7.1%
4箇所	3	1.5%
5箇所	4	2.0%
計	197	



### ③情報発信

本市では、観光パンフレットやインターネットを活用した情報発信を行っていますが、特に若者向けのSNSを活用した情報発信が十分とは言えません。市内外から観光客を誘致するためには、最新情報を広く発信していく必要があり、ポータルサイトの更なる充実に加え、フェイスブック、インスタグラム、ツイッターなどを活用した情報発信に積極的に取り組む必要があります。また、飯塚ならではのマスコットキャラクターによる情報発信も効果的であると考えられます。

### ④広域連携

福岡県内における観光入込客の分布状況では、筑豊地区は全体の8.6%と他地区と比較すると非常に少なくなっています。本市だけでなく筑豊地域全体で観光客を取り込むためには「筑豊地区観光推進協議会」を始め、「シュガーロード連絡協議会」、「九州のひなまつり広域振興協議会」での観光ルートの企画や情報発信がさらに求められます。

### ⑤公共交通機関

平成29年に観光客に対して実施したアンケート調査の「不便に感じた点」では、市内の「公共交通が少ない」という回答が最も多くなっています。市内での観光客の周遊を促進するためには、観光施設を結ぶ交通手段の検討が必要です。

### 3-3 飯塚市の強み

#### ①交通アクセス

本市は、福岡県のほぼ中央に位置し、北九州市と筑紫野市を結ぶ国道200号、福岡市と苅田町を結ぶ国道201号及び大分県日田市と北九州市を結ぶ国道211号が通るとともに、黒崎駅と博多駅を結ぶJR福北ゆたか線、田川後藤寺駅と新飯塚駅を結ぶ田川後藤寺線及び桂川駅と原田駅を結ぶJR原田線が通っており、交通の要衝となっています。また、新飯塚駅から博多駅まで快速電車で約40分、小倉駅まで約60分の距離にあり、九州の2大都市圏である福岡都市圏、北九州都市圏とのアクセスに恵まれています。

#### ②観光資源

飯塚では原始時代から人が生活を始め、弥生時代には既に中国などの大陸文化が伝わり、遠賀川流域の穀倉地帯の中心として栄えた当時の遺跡も数多く残っています。

江戸時代には唯一の外国との貿易を認められていた長崎と小倉を結ぶ長崎街道が整備され、飯塚宿・内野宿は筑前六宿と呼ばれる宿場町として栄えていました。長崎街道は諸大名の参勤交代のほか、交易・献上品の運搬に重要な役割を果たしており、長崎街道沿いには、さまざまな甘いものが生み出されてきたことから長崎街道を別名「シュガーロード」とも呼ばれ、本市でも菓子文化が発展しました。飯塚宿には宿場の面影は残っていませんが、内野宿は現在も宿場の面影をとどめ、市内にはお菓子店舗が数多く存在しています。

明治時代以降は、日本の近代化を支えた筑豊炭田の中心都市として栄え、娯楽の文化、ホルモンやお菓子などの食文化が発展し、本市を代表する観光施設である旧伊藤伝右衛門邸、嘉徳劇場などの近代化産業遺産が存在しています。

現在は、歴史的な観光資源に加え、自然やスポーツ関連施設が多く存在しており、飯塚新人音楽コンクールや飯塚国際車いすテニス大会など「イイツカ方式」と呼ばれるおもてなしの心が育まれ、全国に誇るイベントも開催しています。

#### ③人材・組織

本市には、近畿大学産業理工学部、近畿大学九州短期大学、九州工業大学情報工学部の3つの大学が立地しており、市内には約4,200人の大学生、100名以上の留学生が在籍しています。既に大学生と地域や企業を繋ぐ取り組みが始まっており、今後はインターネットを活用した情報発信やSNSの活用、イベントへの参画、特産品の開発など、若者や留学生のアイデアや情報発信力を観光分野に活かせる可能性があります。

### 3-4 飯塚市の主な観光資源

	テーマ	主な観光資源
1	近代化産業遺産	旧伊藤伝右衛門邸、嘉穂劇場、ボタ山、麻生大浦荘、川ひらた、嘉穂劇場全国座長大会（イベント）
2	長崎街道	内野宿、冷水峠、飯塚宿、旧松喜木醤油屋（周辺史跡）シュガーロード（お菓子）、筑前の國いづか街道まつり（イベント）
3	古代関連	飯塚市歴史資料館、川島古墳、小正西古墳、鹿毛馬神籠石、大分廃寺塔跡、大分八幡宮、綱分八幡宮、曩祖八幡宮、椿八幡宮
4	スポーツ	サンビレッジ茜、筑豊ハイツ・筑豊緑地、飯塚オートレース場、ゴルフ場、アイスパレス、福岡キングス、飯塚国際車いすテニス大会（イベント）
5	自然・温泉	八木山花木園、八木山溪流公園、八木山ハイキングコース、龍王山、三郡山、桜の名所（八木山、勝盛公園、大将陣公園、鳥羽公園）、大将陣桜まつり（イベント）、いづか桜灯 in 鳥羽公園（イベント）、筑豊ハイツ（温泉）、伊川温泉
6	特産品・食	ホルモン、筑穂牛、たまご、お菓子、お酒、農楽園八木山、ふれあい市（農産物直売所）、庄四季物（農産物直売所）、四季一番（農産物直売所）
7	イベント	4月 端午の節句展（旧伊藤伝右衛門邸他） 5月 飯塚国際車いすテニス大会 6月 飯塚新人音楽コンクール 7月 飯塚山笠 8月 飯塚納涼花火大会 9月 全国座長大会（嘉穂劇場） 10月 筑前の國いづか街道まつり 11月 産業まつり（筑穂・庄内・穎田） 麻生大浦荘特別公開 2月～3月 いづか雛のまつり（市内全域） 3月 大将陣桜まつり いづか桜灯 in 鳥羽公園



### 3-5 飯塚市内の観光施設の動向

本市には、近代化産業遺産を始めとした様々な観光資源がありますが、テーマ別に分けると幅広い年齢層の観光客が飯塚市を訪れています。

本市の近代化産業遺産である旧伊藤伝右衛門邸や嘉穂劇場は、アンケート調査の結果から50代以上の方が多く、県外からの来訪も多くなっています。地域経済分析システム「RESAS」のデータから、県内では福岡都市圏・北九州都市圏、県外では隣接県からの来訪が多いと推測されます。また、外国人観光客では、台湾（ツアー）、韓国、台湾（個人）、中国からの来訪が多くなっています。

長崎街道や古代関連に関する来訪者のデータはありませんが、歴史的な観光資源であることから、旧伊藤伝右衛門邸や嘉穂劇場と同様に50代以上の方が多く来訪しているのではないかと推測されます。

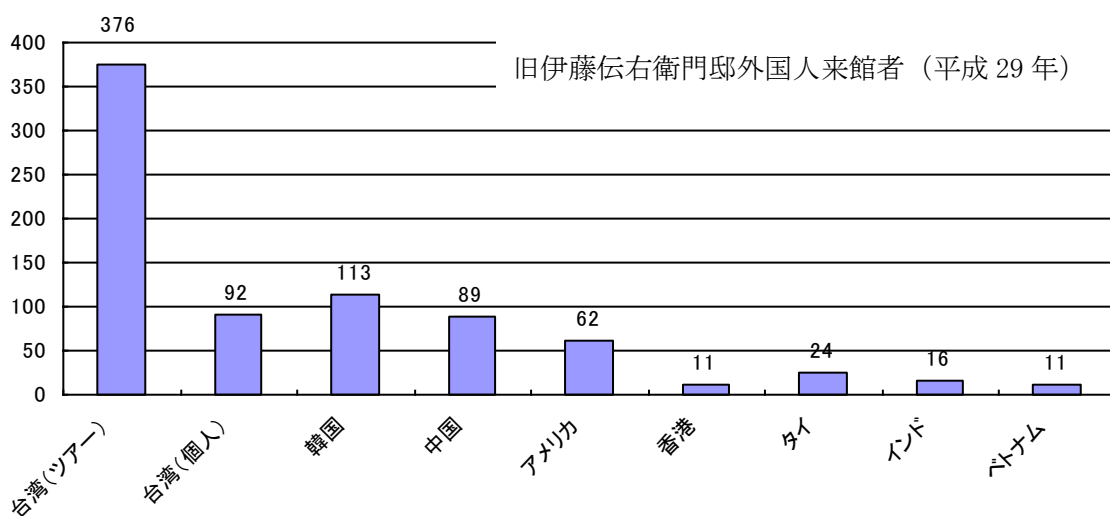
#### <旧伊藤伝右衛門邸アンケート調査>

- ・回答者は20代が最も低く、年代が上がるほど割合が増え、50代以上が65%を超えている。
- ・居住地は県内・県外の割合がそれぞれ約5割となっている。

(福岡県観光入込客数・動態調査、飯塚市アンケート調査)

#### <地域経済分析システム「RESAS」データ>

- ・「旧伊藤伝右衛門邸」「嘉穂劇場」への経路検索は自動車・公共交通機関ともに福岡市・北九州市からの検索が多く、県外からの自動車での経路検索では山口県・広島県・大分県・佐賀県の順での経路検索が多くなっている。



スポーツ関連では、人口芝スキー場や宿泊施設、キャンプ施設を備えたサンビレッジ  
 茜や様々なスポーツ競技に対応した筑豊緑地・筑豊ハイツなどの施設があり、子ども会  
 やスポーツ合宿などで若い年代やファミリー層が多く訪れています。

サンビレッジ茜	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約6割が団体、約4割が個人で利用している。</li> <li>・団体は福岡県内の小学校や子ども会が利用している。</li> <li>・5月から10月の利用者数が多く、11月から3月までは利用者数が少ない。</li> </ul>
筑豊緑地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「RESAS」では、自動車での経路検索は福岡市・北九州市からの検索が多く、県外からの経路検索はほとんどない。</li> </ul>
筑豊ハイツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筑豊ハイツでの宿泊は合宿が多くなる8月に集中している。</li> <li>・筑豊ハイツの宿泊は合宿での利用が5割となっている。</li> <li>・合宿では、テニス合宿が約17%、学校のスクーリングが約7%、スケート合宿が約7%となっている。</li> </ul>
飯塚オートレース場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者数は537,000人（平成28年）</li> </ul>
ゴルフ場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「RESAS」では、飯塚市内のゴルフ場への自動車での経路検索では福岡市からの検索が圧倒的に多い。</li> <li>・じゃらん人気ゴルフ場ランキング（福岡県：57場）では、飯塚市内のゴルフ場6場中、4場が20位以内にランクインしている。</li> </ul>
飯塚アイスパレス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筑豊ハイツでの合宿も行われていることから、一定程度の遠方からの利用があると推測される。</li> </ul>
福岡キングス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筑豊地区では珍しい施設であるため、一定程度の遠方からの利用があると推測される。</li> </ul>
飯塚国際車いすテニス大会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大会期間中に約3,000人が観戦しているため、一定程度遠方からの来訪があると推測される。</li> </ul>

## 第4章 観光振興の目的・基本方針

### 4-1 飯塚市における観光振興の目的

本市の最上位計画である第2次飯塚市総合計画では都市目標像を「人が輝き まちが飛躍する 住みたいまち 住みつづけたいまち ～共に創り 未来につなぐ 幸せ実感都市 いいづか～」と定め、その実現に向けて各種施策や事業を展開することとしています。

- ・本市の地域資源や強みを市内外に積極的に情報発信することで、まちのブランド化に取り組み、産業の振興、交流人口の拡大や定住人口の増加を図る。
- ・市民、各種団体、NPO、事業者等と行政が協力・連携しながら、主体的な参画のもと、すべての人の人権が尊重され、夢や希望を持てる愛されるまちを築き上げる。
- ・近隣の市町村と連携し、共同体の構築を図り、筑豊の中心都市として、福岡県を牽引するリーダーのひとつとなる。

上記の第2次飯塚市総合計画に定めた都市目標像の実現に向けて現状を踏まえて以下の3点を本市における「観光振興」の目的とします。

#### 【地域経済の活性化】

第2次飯塚市総合計画策定のために平成27年7月に実施した市民アンケートでは、飯塚市の住みにくい点として「働く場所が少ない」が上位に挙げられており、解決に向けてより一層の取組が求められています。そのため、観光により多くの人を呼び込み、長時間滞在してもらうことで市内の消費拡大に繋げ、産業・雇用の創出を目指します。

#### 【イメージアップ】

本市はかつて石炭産業の発展により繁栄してきましたが、石炭産業はマイナスイメージを与えるものでもありました。本市のあらゆる分野での発展にはイメージアップは非常に重要であることから、この地が栄えた背景や生まれた文化、魅力を十分に整理し、「観光」による本市のイメージアップを目指します。

#### 【筑豊地域の発展】

福岡県内における観光入込客の分布状況では、筑豊地区は全体の8.6%と他地区と比較すると非常に少なくなっています。本市は筑豊の中心的都市として、観光分野での自治体間の連携・強化を図り、筑豊地域全体の発展を目指します。

## 4-2 基本方針

本市における観光の現状や課題・動向を踏まえ、幅広い年齢層の観光客を取り込むために代表的な観光施設である旧伊藤伝右門邸及び嘉穂劇場、若い年代やファミリー層が多く訪れるスポーツ関連の観光資源を中心・起点として、市内の周遊を促進する取り組みを推進します。また、本市の強みである大学生や留学生のアイデアや情報発信力を積極的に活用した観光振興施策を展開します。

### 飯塚市の観光キーワード

※「次につなぐ」「地域をつなぐ」「次世代につなぐ」「人をつなぐ」等

#### ①観光推進体制の確立・強化

本市の観光振興を図るためには、市民や観光事業者、観光に関わる団体、行政等のそれぞれの役割を明確にし、具体的な取り組みを推進することが重要であるため、官民一体となった観光推進体制を構築します。

また、観光推進体制の強化を図るために観光に関わる人材の育成や観光協会の機能強化を図るとともにマーケティングや戦略的なプロモーションを行うためのDMO組織の設立を検討します。

#### ②既存資源の活用・観光資源の発掘

本市の観光の中心・起点となる旧伊藤伝右衛門邸や嘉穂劇場、スポーツ関連施設から観光客の周遊を促進するため、様々な観光資源を活用した「体験できる」機会の充実を図るとともに飯塚ならではの「食・特産品」の開発を行います。

#### ③情報発信の強化

本市をより魅力的に見せるため、既存のパンフレットやポータルサイトでの情報発信に加え、ICTを活用した効果的な情報発信を行います。

#### ④インバウンド観光客誘客の促進

本市への外国人観光客は福岡県の動向と同様に韓国、台湾、中国が多くなっていることから、これまでプロモーションを行っていた韓国、台湾に加えて中国からの観光客をターゲットとしたプロモーションを実施します。また、外国人観光客が快適に過ごせるような環境整備や受入体制の整備を推進します。

#### ⑤広域連携の推進

国内や海外からの誘客を図るためには、地域の魅力ある観光資源を広域的にネットワーク化することが重要なことから、テーマ別の広域観光モデルルートの開発や広域連携によるプロモーションを展開します。特に筑豊地域では本市が中心となって連携強化を図り、筑豊地域全体の観光広域化を推進します。

#### ⑥受入環境の充実

本市への来訪者に楽しさや快適さを感じてもらえるよう、分かりやすい案内標識の設置や市民全体のおもてなしの機運の醸成を図るとともに物産館等を活用し、観光案内所の機能を持つ観光拠点づくり、主要駅やバスターミナルから観光施設を結ぶ二次交通手段として自転車等の活用を推進します。また、本市の強みである交通アクセスや3大学が立地している環境を活かして、観光客やビジネスマンなどが宿泊し、一定規模の会議や学会などが行える施設（ホテル等）の誘致を検討します。